

みんなの未来 幸せなまちづくり



次世代エネルギーモデル都市の実現に向けて



持続可能な社会の実現のために！

旭化成株式会社

吉野 彰 名誉フェロー

2019年 ノーベル化学賞受賞

いわき市を世界一の復興都市へ！

一般社団法人
いわきバッテリーバレー推進機構

猪狩 謙二 副代表理事



政府の革新的環境イノベーション戦略にも謳われているように、地球環境問題の解決、そのための持続可能な低炭素社会（Sustainable 社会）の実現が21世紀の最重要課題と言えます。これから2050年に向けて様々な分野でのイノベーションが起こっていくと思われまます。これから起こることは単なる技術革新ではありません。社会システムと技術革新が連動することが重要です。こうした観点からいわきバッテリーバレー構想は重要な意味を持っています。福島県にはバッテリーや新エネルギー産業の基盤があります。世界に先駆けていわき市が次世代エネルギーモデル都市として未来のSustainable 社会の姿を具現化していくことを期待します。それにより新しい雇用が生まれ、若い人たちが活躍できる場が生まれてくるでしょう。

いわきバッテリーバレー推進機構の副代表となって6年が経過したが、ここに来て国の政策と相まって明るい兆しが見え始めてきた。機構の目的は地方創生であり構想はその手段である。他地域に比していわき市の人口減少は加速し、高齢化率の上昇は止まることを知らず不等沈下状態にある。また、いわき市の平均所得は直近の統計で303万円、全国的に見ても506位と著しく低い。7割の子供たちが高校卒業後、進学、就職のために市外へ流出し、その地に居を構えて生活を営む。これは単に少子高齢化のみならず人財の流出を招いている。私たちが目的とする地方創生は広範にわたるが、抜本的解決のために、水素、バッテリー等、新エネルギーを駆使したRE100（再生可能エネルギー100%）工業団地の造成による企業の誘致、そこから派生して、医療、子育て、理工系大学院大学誘致による人財教育、経済基盤そのものを底上げして所得の向上も目指すものである。夢ある未来に向けて有言実行し、覚悟を持っていわき市を世界一の復興都市にしていきたい。

いわきへの来歴

吉野彰名誉フェローといわき市のつながりが強くなったのは、3.11東日本大震災以降である。震災後、いわき・福島の子どもたちを元気づけたいという庄司理事の想いに応え、2013年以降、度々いわき市内及び東洋システムで講演会を開催している。ノーベル賞受賞後もその関係性は変わらず、貴重な時間を割いて、いわきにとどまらず福島県内の子どもたちのために特別講演をいただいている。



2013年4月東洋システム本社にて社内講演「リチウムイオン電池の現在・過去・未来」



2019年11月ホテルハワイアンズラビータにて東洋システム30周年式典出席



2020年9月いわきアリオスにて一般講演「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」



私たちが考えるいわきの未来とは？

詳細は裏面へ



